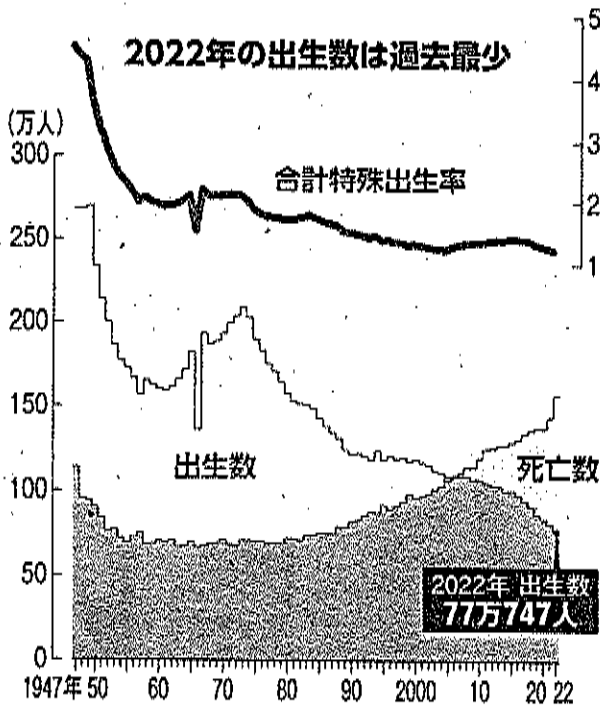


出生最少77万人

昨年出生率も最低1.26



2022年に生まれた日本人のことも（出生数）は77万747人で、統計を始めた1899年以降で最少となり、初めて80万人台を割り込んだ。1人の女性が生涯に産む見込みの子どもの数を示す「合計特殊出生率」は1.26に落ち込み、データのある1947年以降では2005年と並んで過去最低の水準。少子化の加速が止ま

らない状況だ。▼3面 出生減加速、10面 社説 厚生労働省が2日に発表した人口動態統計で明らかになった。出生数や合計特殊出生率が下がった要因について、同省人口動態・保健社会統計室は「コロナ禍で出産や育児に不安を感じ、影響を与えた可能性はある」とみる。

出生数は前年より4万875人少なく（5.0%減）、7年連続減少。同じく過去最少を更新した21年は前年比約2万9千人（3.5%）減で、減少幅が広がっている。

合計特殊出生率は前回の1.30より0.05ポイント（小数点第3位以下を四捨五入）し、7年連続

の低下。都道府県別でも低いのは東京都の1.04。最も高いのは沖縄県の1.70で、例年同様「西高東低」の傾向だった。人口維持に必要な出生率の2.06や、政府が掲げる目標で、結婚や子育てなどの希望がなかった場合に想定される「希望出生率1.8」にも及ばない。

死亡数は15万6千896人で過去最多。死因で最多はがんで38万5787人（24.6%）。新型コロナウイルスは7番目に多い4万7635人（3.0%）。出生数と死亡数の差である「自然増減数」は79万8214人減で、過去最大の減少となった。（関根慎一）